

「第三回インターアクションカウンシル総会」スピーチ要旨

人口と開発に関する世界委員会・理事

人口と開発に関するアジア議員フォーラム・議長

佐藤 隆

議長はじめ、御列席のメンバーの皆さま、私は先ず世界の平和と繁栄の為に大きな使命をにない、高い立場から活動を続けておられます皆さまに、心から敬意を表します。

そして、この「インターアクションカウンシル第3回総会」で、私に「人口に関連する問題」について発言の機会を与えられたことを大変光栄に思うと共に、深く感謝申し上げます。

さて、インターアクションカウンシルの最高目標である世界の平和と繁栄は人類永遠の願いであります。残念なことにこの地球上では人類が出現して以来絶えず、どこかの国で国家間の戦争が起きており、その深い根底に『人口に関する問題』、『資源を中心とした開発の問題』が常に存在し、かかわって参りました。私は、インターアクションが当面の緊急課題としている、『平和と軍縮の推進』『金利引き下げと対外累積債務の処理を中心とする世界経済の再活性化』『開発協力の強化策』とともに、人類の生存と平和を脅かす『人口問題』を、インターアクションカウンシルでは是非とりあげ、並行論議して頂きたいと訴えるものであります。

なぜならば、適切な人口と資源の開発なくしては、真の世界平和も繁栄も求めることはできないからであります。

今、この地球上の環境は大きく変わりつつあります。目ざましい科学技術の進歩にも拘らず、もはや人々は人類が生きていくために必要な、食糧や資源が無限であることを信じなくなっています。

この一九八〇年代、人口は先進地域で減り、途上地域で爆発的な急増を続けております。一九八四年七月の統計では、世界の人口は四十七億六千三百万人で、年間八〇〇万人以上の増加を続け、今日現在では優に四十八億を超えております。十五年後の西暦二〇〇〇年には、六十一億三〇〇〇万人に達すると予測されております。しかも、年間人口増加八〇〇〇万人のうち、七〇〇〇万人は開発途上国で増えるものであり、世界人口の四分の三がこれらの地域に集中していることにも注目しなければなりません。

増加率に関して見るならば、一九六〇年代後半には、二・〇六%という驚くべき数字を示したものが、現在は関係者の努力により、一・七%にダウンしており、開発途上国でも二・四%から二・〇%に落ちていきます。しかし人口そのものは依然として増え続けており、当該国の賢明な政策による調整の強化が必要であります。

現在、八十五の開発途上国で、公的援助による家族計画プログラムが実施されていきますが、まだ二十七ヶ国が導入しておらず、その半数がアフリカ諸国でありそこでは人口増加が最も高く、所得は最も低くなっています。

その一方で、先進国では人口の高齢化が進んでおります。国連の発表によりますと、一九八五年現在の人口中央値は二十三才で、二〇二五年には三十一才になります。

今日、先進国では極端な高齢化が続き、日本でも非常に深刻な課題になってきております。シンガポール、香港、韓国、ブラジル、メキシコ等の出生率低下を実現した新興工業国や、一人っこ政策をとってきた中国でも、高齢化問題に対する関心が非常に高まっています。

この高齢化問題は、社会問題に加え、医療、年金、雇用、等々で、早急な対策を迫られております。現在、人口抑制に力を入れている途上国にも、いずれ高齢化という人口構造上の難問が待ち構えているのであります。

また一部の先進国では、人口増加の静止、或いはマイナス減少が起きています。これは、死亡率が出生率を上回ることによる人口の絶対的減少であり、これも見逃すことのできない人口問題の一つであります。

このように、一方で飢餓と貧困によるおののき、一方で高齢化社会の不安、まさに『人口問題』は、一つの問題解決が、新たな問題を生むという厳しい宿命をもっているのであります。

そして、さらに人口問題は、その国の文化、思想、宗教、政治、経済等を複雑かつ有機的に結合しつつ、さながら「迷路」の様相を呈しております。

この「迷路」から脱出するためにはどうしたらよいか。

先ずは、有効な教育と家族計画の徹底が必要です。その原点は、人命尊重、人権尊重、そして人類愛そのものであります。

これに、資源を求め、新しい技術開発の英知を組み合わせれば、必ずや道は開けるものと確信いたしております。

そして何よりも、各国政府、立法府、UNFPA等国連機関、民間レベルでのI P P F等の、積極的なイニシアチブによる、各国の主権を尊重した、相互協力、相互依存が重要なキーポイントになると思います。

そして、知恵を持つ者は知恵を、豊かな財を持つ者は財を、これが必要とする国々に提供し、この友情を受ける国は感謝と自らの努力によって問題解決のために真剣に汗を流すべきだと考えます。

さて、議員グループの世界組織である「人口と開発に関する世界委員会」・グローバルコミッティー会長の福田元首相は、インターアクションカウンシルのコンビナーとして、その設立委員会で世界の人口問題に焦点をあて「人口と開発の課題が、この激動とも言うべき変化の時代への、対応の主軸として、取り上げられなければならない。」と、提唱され、シュミット元首相をはじめ皆様がこれを高く評価されました。

UNDPの事務総長・モース氏も率先理解をされ、助言を重ねてこられました。

世界の人口問題は多様化し、都市化、高齢化等を見ても歴史上かつてなかった程に複雑化、深刻化しております。私は人口問題の解決は、世界平和と繁栄の原点であり、国際政治に課せられた緊急課題であるとの認識をいよいよ深くしております。

かかる問題の対策としては、人口と開発、各々の特殊性に応じた「最もバランスのとれた人口と開発の総合政策の確立」それ以外に方法がないと確信いたします。

希望に満ちた二十一世紀を築くため、このインターアクションカウンスルで具体的に「人口委員会」を設置され、カウンスルの目標を効果的に前進されるよう、議長はじめメンバーの皆さまの、一層の御理解をお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

(一九八五年四月二十日)